

1 目的

人権尊重の精神に基づき、人権感覚を磨き、人の痛みの分かる豊かな感性を培うと共に、人権が尊重される学校づくりに向けた具体的な態度や行動がとれる児童の育成を目指すことを目的とします。

2 内容

(1) 人権タイム

毎月1回、全クラス、「人権タイム」を設定しています。3～6年までの児童は、「やくそくノート」を活用しながら、ソーシャルスキルトレーニング等を通して、コミュニケーションスキルを身に付けるための学習活動を行います。

(2) みとめあい・たすけあい・はげましあい集会

12月上旬の「人権週間」にあわせ、人権尊重への理解と人権意識の高揚を図ります。今年度のテーマは「励まし合い～やってみよう つなげよう～」です。友達のよさや考え方の違いを知り、相手との関わり方に生かそうとする姿を、生活の中で生かし続けることができる取組を行ってきました。集会では、学校生活の中でみんなのためにがんばっている友達を紹介します。互いに支え合って生活していることを確認すると共に、相手への感謝の気持ちの発表を行います。



【「ありがとうカード」発表】

児童会からは、東日本大震災・熊本地震の支援継続のために、現地の現状の紹介をプレゼンしたり、絵手紙の紹介を行ったりしました。集会の最後には「あなたに ありがとう」の全校合唱をし、仲間と支え合い、共によりよい生活を目指そうとする気持ちを、さらに高めることを目指します。

(3) 教育相談

年に2回、hyper-Q-U検査を行い、それを基に学級担任が、クラスの児童一人一人と教育相談を行います。児童の気持ちや悩み等に気付くことで、児童の心に寄り添った指導を行います。

3 評価

(1) 人権タイム

人権タイムにおいて、人との関わり方やスムーズに人間関係を築ける技術を、「やくそくノート」を使って実践的に学ぶことができました。これにより、互いが気持ちよく生活できるスキルが身に付きつつあります。

(2) みとめあい・たすけあい・はげましあい集会

全児童が、毎日の生活の中で、みんなのためにがんばっている友達について

て「がんばったねカード」に書き、集会の会場に掲示したり、代表者が発表をしたりしました。この集会を通して、互いに助け合い、励まし合って生活していこうとする気持ちを、高めることができました。さらに、今年度のテーマである「励まし」を生活の中で継続して取り入れ、関わりの少なかった人とのつながりがより増えていくことを望んでいます。

（３）教育相談

hyper-Q-U検査を実施し、それを基に担任が、児童一人一人とじっくり時間をかけて教育相談を行いました。いじめの早期発見の機会にすると共に、個々の悩みについてアドバイスをを行いました。この取組により、日頃の学校生活の中ではなかなか把握することがむずかしい児童の心の内面や不安について知ることができ、今後の学級経営に大きく活用することができました。

4 課題

「自分を大切にすると同様に他人を大切にできる」、「人の立場に立って物事を考えられる」という目標を掲げ、人権が尊重される学校づくりに向けて取り組んできています。児童の中には、知識としてこれらのことが理解できていても、まだまだ十分な実践力が身に付いていないといえます。今後も、人権尊重の実践力を、より確かなものにするため、地道に研究を進めていきます。



【教育相談】

『豊かな人間関係を築く、異学年交流ふれ合い活動』

あま市立甚目寺東小学校

1 目 的

ペア学年で小グループをつくり活動することにより、異学年の交流の活性化を図り、仲間意識を高めます。その活動の中で、助け合い、認め合い、思いやり、相手への感謝等、児童に人権が尊重される学校づくりに向けて具体的な態度や行動がとれる実践力を、養うことを目的とします。

2 内 容

各学期に、以下の予定でペア学年での交流活動を行います。

(1) 4月～7月

6月・7月に20分間の休み時間に運動場及び室内で、リーダーを中心にして、ペア学年で一緒に遊ぶ機会を設けます。

(2) 9月～12月

10・11月の2回、20分間の休み時間に運動場及び室内で、リーダーを中心にして、ペア学年で一緒に遊ぶ機会を設けます。

(3) 1月～3月

2月上旬に「ふれ合い集会」を実施し、大縄跳び大会を実施します。

各時期、1年と6年、2年と5年、3年と4年で、2つの学年がペアになって、レクリエーション交流活動を行います。上の学年は下の学年をいたわったり、下の学年は上の学年の子に感謝の気持ちをもったりする等、相手の立場に立った人間関係づくりを学びます。



【ペア学年ふれあい活動】

3 評価

1年と6年、2年と5年、3年と4年の異学年でペアをつくり、交流活動を行うことで協力して活動しようとする姿勢、思いやり、譲り合いの精神を養うことができました。また、異学年の仲間との交流を通して友達や教師から認められ、頼られる存在だと感じる体験を重ねることで、子ども一人一人の自己有用感を高めることができました。

4 課題

異学年集団での活動を通して、協力して活動しようとする姿勢、思いやり、譲り合いの精神を養うため、活動内容のさらなる充実を図ることが課題です。

1 目的

講師や学習支援員を招いて、外部人材の教育力を取り入れた教育活動を推進します。

2 内容

(1) 特別支援学級の生活単元講師

生活単元の授業において、特技を持った地域の方を講師として招き、工作や調理実習等を行い、生活面で必要とされる技能の習得を図ります。

(2) そろばん教室（3年生対象）

算数の授業で、講師の先生から、そろばんの歴史や基本的なそろばんの操作について学びます。

(3) 人権理解教室（6年生対象）

ハンセン病について講師を招き、話を聞くことで、人権についての理解を深めると共に、人権意識の向上を図ります。



【そろばん教室】

(4) 星空教室（4年生とその保護者対象）

津島天文クラブの方を招き、星について話を聞くと共に、実際に天体望遠鏡での星空観察を実施し豊かな心を育みます。

(5) 「プログラミング教育」についての現職教育研修

講師を招き、「プログラミング教育」における導入しやすい単元である5年生算数の「多角形」分野、6年生理科の「電気」分野において、授業のすすめ方を学びます。

3 評価

(1) 地域の方による生活単元の授業

地域の方を講師として招いて、さまざまな物品を組み合わせて、想像力あふれる作品を製作し、児童に必要な生活能力や技能を高めることができました。

(2) そろばん教室

講師の先生から、テキストを使ってそろばんの基本操作を学び、そろばんによる数の表し方について理解すると共に、そろばんを用いて簡単な加法及び減法の計算ができるようになりました。

(3) 人権理解教室

小笠原博士の偉業について学ぶと共に、正しい知識をもたないことからくる差別について、考える機会を持ちました。その中から、誰もが幸せに生きる権利をもち、それを侵害することは許されないという態度を養いました。

(4) 星空教室

星空教室で講師の先生から、星についての話を聞き、実際に土星や火星や月を天体望遠鏡で観察しました。自然の美しさ、雄大さ、神秘性を感じるこ

の体験を通して、子どもたちに豊かな心を育むことができました。

(5)「プログラミング教育」についての現職教育研修

実際に、5年生、6年生の児童に対して、講師の先生が授業をしていただくことで、担任の先生、参観された先生が、実践的な授業のすすめ方、注意点を確認することができました。職員を対象にした研修では、プログラミングソフトを実際に職員も使うことで、授業場面を想定しながら研修に参加することができ、力量向上につながりました。

4 課題

専門的な知識や、これまで積み重ねてきた経験に基づいた講師の方の一言一言は重みがあり、児童・職員の心に響くものがたくさんありました。今後の教育活動に必要な専門的な知識と技能を持った方々を、いかに発掘し活用していくかが一番の課題です。